

数学図書の配架方式について

小田 忠雄

数学関係の図書には、雑誌、和書単行本、洋書単行本、全集、論文集、シンポジウムの議事録(Proceedings)等の様々な種類がある。その数は年々激しい勢で増加しているが、図書カードに代るコンピュータ検索システムが整備されつつあるお蔭で、検索に際する困難はそれ程増加せず、むしろますます便利になってきている。

しかしながら、利用者が自分で目的図書を探す開架方式の図書室・図書館では、合理的な配架方式を採用してくれていないと、求める図書の検索に成功しても、その図書を実際に手にするのが極めて困難となる。

数学関係洋書単行本の場合の配架に限ってみると、主題分類別方式と著者のアルファベット順方式とに大きく分れる。

例えば米国では、議会図書館分類による前者の方式を採用しており、馴れない私などは求める図書を見つけるのに大変戸惑う。しかし、米国方式に馴れた数学者にとっては、専門以外の分野での関連図書が一斉に見つかったり、自分の専門分野でも新刊図書に容易に気付くことが出来る等のメリットが大きいようである。学生達にとっても、この方式の方が親切であろう。

一方、我が国の数学関係図書室では、著者のアルファベット順配架方式を採用しているところが多い。(もっとも、我が国の図書館・図書室全体の中では、これは極めて異端な方式のようである。)代数・幾何・解析等という昔の分類方式では、既成の分野にまたがる分野での研究が盛んな現状に対応できない。誰かが恣意的に無理に分類してしまうと、探し出すのが極めて困難になってしまう。米国の方式もその点では同様であり、あまり合理的と思えない。米国方式の上述のメリットは、今後とも益々充実することが予想されるコンピュータ検索によって補うのが自然であろう。また、若くて視野の広い研究者にとっては、アルファベット順配架方式のお蔭で、全く関係ない分野の興味深い図書を偶然に隣で見付けられるメリットもある。

ところが、アルファベット配架方式といっても、利用者である我々が素人考えをする程単純ではなく、実際に本が見つからなくなってお困りの数学図書室が増えているようである。そこで有難味を発揮するのが、1961年に、名古屋大学理学部数学教室司書の軽込(かろこみ)雅子さんが初めて開発された「軽込方式」であり、名古屋大学の数学図書室への問い合わせが最近増えている由である。東北大学の数学図書室でも、1979年の

数学図書の配架方式について

青葉山キャンパスへの移転を機会に「軽込方式」を採用させて貰い、現在でも何の問題もなく機能しており大変感謝している次第である。

「軽込方式」による洋書単行本配架の原則は、「同一著者は同一分類記号番号」、
「同一著者の著書は発行年順」により、辞書式の完全な線形順序で配列し、複本も隣同士に並べることである。(我々素人は、手持の単行本を単純に姓の辞書式順序で並べれば良いのではと考えてしまうが、それでは膨大な数の蔵書を管理出来ない。)それに対し、多くの数学図書室で採用し困難に直面しているアルファベット配架方式とは、著者の姓のアルファベット1~2文字のみを基準とし、後は受入順に番号を付けてそのまま配架するものである。これでは、複本のみならず、同一著者による図書全てが無秩序にあちこちに分れて配架されてしまい、探すのが極めて困難となる。

蔵書管理の容易さを保ったままで、しかも何年経っても破綻することなしに、上記の原則を実現できるのが「軽込方式」の特徴である。4段のラベルを使用し、まず姓のアルファベット最初の3文字による記号を第1段目に書いて大きく分類する。次に第2段目には、第1段目の記号が同じ著者を区別するために、アルファベット順の正確な位置で固有の番号を著者毎に決めて書く。最初この番号は偶数または5、10等の飛び番号を使い、新しい著者が間に割り込んで来た場合には、両側の著者の数字の真ん中にある数字をその著者に割り当てるのである。小数点以下の数字も使用する。これなら、永久に破綻しない。最初に分類する際に充分離れた数字を著者番号として割り当てて置けば、割り込んできた著者用に小数点まで必要となるのは極めて稀であろう。ラベルの第3段目には、その著者による著書を発行年順に並べた著書番号を書く。複本がある場合には複本番号も書く。著書番号で割り込みが必要な場合(出版年の古い本が後から入った場合)には、小数点以下の数字を使用すればよい。(更に、我々利用者はあまり意識しないですが、図書室・図書館では定期的な蔵書点検が不可欠である。その際に能率を上げるため、「軽込方式」では、上記に加えて各単行本固有の教室独自の登録番号をラベルの第4段目に表示する。)

「軽込方式」では、洋書単行本の他に、シンポジウム等の議事録の配架に関しても独特の工夫がされている。関心のある方々には、軽込雅子さんが最近纏められたパンフレット「数学図書室の整理について」の一読をお勧めする。(請求先: 466 名古屋市昭和区川名山町 93-8 軽込雅子 FAX 052-834-6616 無料。)

(おだ ただお, 東北大学大学院理学研究科)